

令和 3 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホーム金木犀 ユニット2

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390900330		
法人名	医療法人 一秀会		
事業所名	認知症高齢者グループホーム金木犀 ユニット2		
所在地	〒021-0012 岩手県一関市宮前町14-9		
自己評価作成日	令和3年11月12日	評価結果市町村受理日	令和4年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年も金木犀の花が咲き、優しい香りがリビングまで届いています。コロナ禍の為、外出も控えており、お花見ドライブは市内を車の中から見るだけでした。室内では、折り紙で作品を作ったり、季節のタペストリーを飾って楽しんでいます。1階・2階の職員の連携が取れており、何かあれば協力しあっています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営法人本部を隣県栗原市に持つ当事業所は、周囲を住宅やマンションに囲まれた閑静な地に立地され、総2階建ての2ユニットにより運営されており、開設以来4年目を迎えている。市内には、系列のグループホーム、デイサービス、訪問介護等の施設がある。職員の年齢層は10代から60代までと幅広いが、チームワークがよく、利用者が安心して自分のペースで暮らしていけるよう、連携、協力しながら介護サービスに努めている。特に理念の「思いや願いを大切に」の実践に向け、一人一人が好きなおこと、やりたいことを見つけ、生きがいを持って暮らしていけるように働きかけており、貼り絵や折り紙、習字等、皆で楽しみながら取り組める活動に力を入れている。理念の一つに掲げる「地域との繋がりに」の実践では、開設2年目で新型コロナ感染が拡大し、地域交流が殆どできて来なかったが、地域の一員として暮らしていけるよう、改めて今後の交流方法を模索している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会		
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号		
訪問調査日	令和3年12月2日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木犀 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所前の廊下に理念を掲示し、理念を念頭において支援を行うようにしている。	利用者一人一人の好きなこと、やりたいことを支援するための目標をケアプランに盛り込み、職員が共通認識を持って、開設時からの理念「思いや願いを大切に」の実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、毎月広報誌を届けていただいている。コロナ禍において、現在は交流はほとんどなくなっており、挨拶等を交わす程度である。	地域との繋がりを大切にすることを理念に掲げ、地域交流に力を入れ始めたところに新型コロナウイルス感染が拡がり、思うような交流ができず、地域の方々とは、挨拶程度の関係になっている。コロナ収束後の地域との交流方法について工夫したいとしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に向けて現状では何も出来ていないが、今後何か出来れば、と思っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催される会議で、ホーム内の状況や行事・事故報告等を伝え参加者から助言をいただいていたが、コロナ禍において今年度は開催出来ておらず、報告のみとなっている。	外部からの委員は、行政を除くと、民生児童委員でもある行政区長さんのみとなっている。家族は、代表者を決めず全員に声を掛けている。昨年度から全て書面会議としてきた。はがきを同封し、意見、提案等を求めているが、特に意見等は出されていない。	委員会メンバーの拡充が望まれ、地域で様々な活動を行っている方々を発掘するなど、多様なメンバーに入ってもらいたい。地域との交流の窓口にもなってもらうことが期待されます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて電話で相談、確認を行っている。直接お会いして対話を行う事もある。	広域行政組合や市の長寿社会課からは、制度運用の照会や指導を得ており、地域包括支援センターとも、困難ケース等について連絡、連携等が円滑に行われている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内研修を行い、理解を深めている。日中は玄関の施錠を基本的には行わっておらず、身体拘束をしないケアに努めている。	両ユニット全職員で構成する「身体拘束廃止委員会」を職員会議の後に開催し、指針に基づく取り組みの状況を確認している。現在は、委員会の開催は控え、管理者が、利用者の安全な暮らしと抑圧感のない支援に向けた職員個々の取り組みの状況を確認しながら、身体拘束や行動抑制のないケアサービスに努めている。現在、離床センサー等の使用者はいない。気になる言葉遣いに対しては、管理者が、その場で確認、注意している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木犀 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	事業所の内部研修にて、虐待について学び、理解を深め、注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所の内部研修にて、権利擁護に関する勉強会を実施し、知識を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族様には十分理解して頂けるよう時間をかけて説明をしております。その上で納得していただき、手続きを行うように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見や要望があった際は、担当職員と相談し、その内容を会議等で報告している。また、意見を言い出しにくい場合も考えられる為、玄関にご意見箱を設置している。	利用者の半数は、自分の気持ちや思いを言葉にできるが、運営に対する希望等は特に出ない。家族は、この2年間、窓越しの面会になっており、その際、本人の様子等を伝えながら、情報交換や意見の聴取を行っている。また、毎月の暮らし振りをケース記録からコピーし、請求書に同封し、お知らせしながら意見、要望等を伺っているが、運営に関する意見等は出されていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で各職員からの意見や要望、提案を聴く機会を設け、業務の見直し、改善を行っています。	1階管理者は、業務を通じ、日常的に個々の職員から意見等を確認している。2階管理者は、職員会議やカンファレンスの際に、職員の意見、提案を確認している。職員から食事が摂りやすい食器の工夫やクリスマスプレゼントの提案があり、運営に反映されている。職員の年齢に開きがあるが、両管理者とも、全員が何でも話し合える雰囲気があり、運営について、率直な意見交換が出来ているとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援や、自信・やりがいを持てるような職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的な資格取得を促している。また、研修への参加や開催を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上や、同業者との交流の場を設ける為、外部研修への参加を促している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員から利用者様に話しかけ、会話の中から不安や要望を見出すよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にご家族様とお話をし、要望や不安な事等を確認している。何かあった際は、話し合える関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々の状態を見ながら、今何を必要としているか、その都度考えながらすすめている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テーブルを拭いてもらったり、洗濯物をたたんでもらったりと、ご利用者様が出来る事を手伝っていただいている。場合によっては職員が手を貸し一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご家族様に、ご利用様がどのように過ごしているか、文書でお送りしている。また、ご家族様との電話の際や、来所された際は、近況を報告したり、通院をお願いする事もある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在コロナ禍で直接面会は出来ない為、ガラス越しで面会し、必要に応じて電話で会話をしている。お部屋に家族写真を飾っているご利用者様もいる。	面会を制限しているため、知人、友人の来訪は殆んどない。2階と1階の利用者の交流があり、一緒に梅干しづくりに精を出す姿が見られる。2ヵ月毎に来所し、男女問わず散髪してくれる美容師はお馴染みさんになっている。通院の帰路、自宅周辺まで足を延ばし、馴染みの風景を見てもらうなど、思い出の場所との縁を切らさないよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関係を考慮しつつ、時々席替えをして交流をもっと頂けるようにしている。必要に応じて、職員が間に入り、孤立しないように気をつけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した方でも、ご家族様にお会いした際は、現在の様子を伺っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、ご本人様の希望や思いを確認している。困難な場合は、ご利用者様の言動や行動等からくみ取るよう努めている。	10時と14時のお茶の時間を中心に利用者との会話を大切に、本人の思いを受け止め、希望や意向を汲み取っている。好きなこと、得意なこと、やりたいことを引き出すよう働きかけ、習字、おやつづくり、梅干しづくり、モップがけ掃除など、利用者それぞれに意欲を持って取り組んでもらうよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前調査の際に、生活歴や暮らし方等お伺いしている。入居後も会話の中でご自宅での生活の様子等をお伺いし、日々のケアに繋げるようにしている。		

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木犀 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様がどのように過ごしたかや、普段と違った事等、一日の様子を記録して職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様の希望を取り入れて介護計画を作成している。カンファレンスやモニタリングを行って、意見やアイデアを出し合い、介護計画に反省させている。	本人や家族の希望も盛り込んだアセスメント記録をもとに、計画作成担当者が短期6ヵ月、長期1年の目標を設定している。作成した当初のケアプランについて、毎月の居室担当者を中心に行う全員のモニタリングをもとに、6ヵ月毎に必要な見直しを行っている。その際には家族の意見も確認している。必要な介護サービスに加え、思いや願いの取り組み事項を目標に掲げ、支援、援助するケアプランになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日々の様子や気づき等、個別にケア記録に記入し、職員間で共有している。毎月カンファレンスを行い実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍で外出できない事もあり、訪問美容室を利用していただいている。また、かかりつけ医への通院支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	かかりつけの病院や、調剤薬局を利用、相談する事で、不安なく暮らせるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に関しては職員が同行し、定期的に行われる検査に変更がある場合、ご家族様に報告している。	両ユニットとも、利用開始前からのかかりつけ医を継続受診しており、整形、皮膚科等の特定の受診を除き、居室担当等の職員が同行し、ホームでの体調等を説明している。家族には、受診結果に変わりがあれば電話や毎月のお便りで報告している。訪問看護も1名が利用している。法人の系列老健から看護師が週1回来所しており、受診結果や体調等で気になることなどを1週間分記録しておき、助言を受けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に来所する看護師に、その時々の状態を報告し、その上でアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関の関係者への相談や情報収集に努め、連携を図っている。また、ご家族様と情報交換し、協力を得ながら入退院の支援に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所する際、重度化や看取りについてご家族様に説明している。希望があった場合、医師や看護師の助言に沿って支援していきたいと思っている。	利用開始時に、重度化については、食事が取れなくなったり医療が必要にならない限り対応すること、看取りについては、医療機関の協力を得ながら対応したいことについて、重度化、看取りの対応指針により説明し、同意を得ている。現在は看取りの対象になる利用者はいないが、今後に備え、看取り経験のある職員を中心に、職員の精神的負担の解消も含めたターミナルケアの研修に力を入れたいとしている。	ホームとして看取りに対して前向きな考えを持っていますが、医療、看護との具体的な連携の方向がはっきりしていない面があります。今後、訪問診療をしている医療機関へ看取りの協力依頼を行うこと、法人の看護師等との連携方法を明確しておくことなど、看取りに向けて具体的な「医療・介護の連携体制」を確立しておくことが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に来所する看護師や、先輩職員に相談するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震や災害に備え、食料や飲料水の確保をし、年に2回、避難訓練を実施している。	年2回の火災避難訓練を実施し、うち1回は夜間想定の実践を行っている。今年は消防署の立会いはなかった。非常口にスロープを設置し、課題の一つは解消されたが、2階からの車椅子利用者の避難方法の工夫、目の見えない利用者の避難等、改善すべき課題もあり、継続して対応を検討している。	2階からは、非常階段で避難することになっていますが、特に2階の車椅子利用者への具体的な対応や避難の方法について、早急に検討されることが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助の時など、大きな声で言わないようプライバシーに配慮し、不快な気分にならない言葉かけをするよう心掛けている。	職員は、利用者に威圧感を与えたり身構えたりするような語調にならないよう、敬意を払いながら対応している。利用者一人一人の気持ちを尊重し、やりたいこと、得意なことなどへの取り組みにおいても、“待つこと”、“せつかないこと”を大切にしながら働きかけを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分からは何も言わない方もいるので、時間をかけて対応したり、耳の遠い方には、耳元で話しかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コロナ禍で出来る活動も限られているが、中でも本人の希望に合わせ、その方のペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りが難しい男性ご利用者様には、お手伝いする事もある。女性では化粧やパーマをかけている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お粥や刻み食など食事形態にも工夫し、美味しかったと提供していただけるよう、職員同士で相談して提供している。	法人本部内の老健の厨房で主菜、副菜等の副食が調理され、毎日届けられる。ホームでは、主食のご飯とみそ汁を用意している。体調管理上ダメな食材、嫌いなもの等は、予め登録して、代替のものを準備してもらっている。6割以上がお粥食で、職員が柔らかさを調整して提供している。両ユニットとも、職員と一緒に食事は摂らず、見守りを中心に、食事介助が必要な1、2名の利用者の援助を行っている。梅干しづくりは、食べたいという利用者皆の声から生まれた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご利用者様個々に合わせて、食事形態や量を調整して提供している。水分摂取は必要量を摂取して頂けるよう、お声がけしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木犀 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後皆にお声がけした後、介助が必要な利用者には口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を見て、トイレの間隔が空いた際は、お声掛けをしてトイレ誘導している。夜間のみオムツ使用している方も数名いる。	日中は1階と2階を合わせて、ポータブルトイレ利用2名、おむつ2名を除き、トイレで排泄している。布パンツ使用で自立している人も4名いる。夜間は、おむつ使用の人もいるが、自分で起きてトイレに向かう人が多い。介助の度合いが増えつつあるが、全員が現状を維持できるよう援助や支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	テレビ体操を取り入れているが、車イス利用者は特に運動不足になりがちな為、オリゴ糖を服用したり、看護師と相談しながら下剤で調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の好みの湯加減に調整したり、ラジオや音楽を流したりする事もある。	シャワー浴の人も数人いるが、音楽を流したり、柚子湯や菖蒲湯等、季節のお湯を用意し、一人30分程度、ゆっくりとくつろいで入浴してもらっている。入浴を嫌がる時は無理強いせず、翌日に改めて入浴してもらうなど、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	カーテンで明るさを調整して休んで頂いたり、テレビを観て楽しんで頂く等、ご利用者様に合わせて支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が変更になった時は、特に症状の変化に気をつけるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タオルたたみは日常皆さんに行っている。余暇にはカルタ取りや塗り絵、又は行事に合わせた装飾づくりを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染拡大防止の為、基本的には受診以外の外出は行っていない。受診が外出の機会であるので、その時期の季節を感じていたき、それにまつわる話を会話につなげている。	法人全体で外出を控える方針になっており、外出機会が大幅に減少する中、春の桜、秋の紅葉を車窓から楽しむドライブに出掛けた。通院帰りに自宅周辺を廻ることもある。外出できない分、ホーム内での貼り絵、折り紙、習字等、皆で一緒に取り組む活動を増やしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様個人ではお金を持つ事も使用する事もない。必要なものはご家族様に連絡し、持ってきていただいたり、施設で立て替えて購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は、電話をかけて会話のサポートを行っている。また、遠方の親族から手紙が届く事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わっていただけるよう、壁にその時々での装飾を施している。清掃、ゴミ等に気をつけている。	天井、壁クロスは白を基調とし、南向きの窓も大きく、明るいホールになっている。用途によって多人数にも少人数にも使用できるテーブルを、現在は、2名ずつ同じ方向に座るよう4組に分割して配置している。利用者と職員の合作による貼り絵や折り紙の作品が飾られ、現在、クリスマスバージョンの作品が作られている。全体が無駄のないコンパクトな造りで、利用者の動きもよく見え、安全で安心な共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者様同士で会話やゲームを楽しめるよう、又は独りになるスペースを考え、テーブルの配置や席を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にいた時から使用していた家具や、ご家族様の写真を飾ったりしている。	ベッド、大型のクローゼット、洗面台、エアコン等が常備されている。仏壇や神棚をセットしたり、昔からの愛用品の小物を飾ったりしながら、それぞれの好みにあった、落ち着いた部屋づくりを行っている。テレビやラジオを持ち込み、楽しんでいる利用者もいる。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : 認知症高齢者グループホーム金木犀 ユニット2

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室と分かるよう、目印をドアや取っ手につけている。トイレの場所には分かるように標示がしてある。階段を使用できない方の為に、エレベーターを活用する事が出来る。		